

中国渡航の不安と感じたこと(9月レポート)

山本 裕之

2023年度山西大学奨学生に選定いただきました山本です。本年60歳。60歳という年齢の者を奨学生に選定いただきました埼玉県および関係部署の方々、受け入れていただきました山西大学に感謝申し上げます。

また、知事公邸において開催された埼玉親善大使の任命式においては、大野知事から直接各地に派遣される留学生に対して親善大使任命書の授与があり、私も県から派遣されたという責任の重さを感じております。他の国に派遣された高校生、大学生にとっても、県とのつながりを感じたすばらしい経験になったと思います。

最初に時代背景について触れておきたいと考えます。2022年12月に中国のゼロコロナ政策終了、その後一時感染者が爆発的に増え、2023年2月23日コロナ収束勝利宣言。昨年までは渡航ができずオンラインでの授業、今年も中国へのビザ発給が一時停止したりと不安の中での渡航手続き開始となりました。さらに、中国政府による邦人の拘束、福島原発の処理水排出による魚の全面輸入禁止、ニュースでは中国への渡航は危険だという話が流れ始めていました。

あえて私が時代背景を書きたいのは、30年時間が停止している日本にいて感じない、国と国との関係を自分事として感じたからです。ニュースではたくさんの方が情報が流れるが、どれだけ”自分事”として感じるができるだろうか。大袈裟かもしれませんが、今回の派遣を通して国と国、日本のニュースで流れる”中国”という大きな主語で語られる話と、ここ山西省太原で生活している人々との違いを肌で感じたいと思います。

8月30日、日本の航空会社で北京に到着して到着ロビーを出たとき、卵を投げられるのではないかと一抹の不安がありました。ところが何も無い、30年前に中国を旅行した時の混沌と白タクに囲まれることもない、拍子抜けとはこういうことか。その後山西省太原で1か月生活した中でも、一度も日本人だからという扱いにまだ会っていません。

留学生生活の話を書くと怒られそうですが、渡航に際して中国に対して感じたことが多いので、「個人情報」と「国の大きさ」について書きます。

【個人情報について】

ビザ申請書では高校入学からの学歴と社歴、親族情報を記入させられ、空港ではすべての指紋採取、鉄道移動もパスポート必須、電子マネーもパスポートの登録必須。こちらの銀行口座の申請では、日本のマイナンバーカード番号も登録が必須だと言われ記入させられました。

日本はマイナンバーカードでもたもたしていますが、中国ではそこに異議をはさむ余地はありません。あくまで私個人の考えですが、電子化の世の中では個人 ID は必須だし、逆に個人 ID 化がなければこれからの電子化社会は築けないのではないのかと思います。便利さと個人 ID 管理は表裏一体なのではないのだろうか。中国と日本はある意味両極端だが、最低限の個人情報管理、または実名管理が日本も必要だと感じるできごとでした。

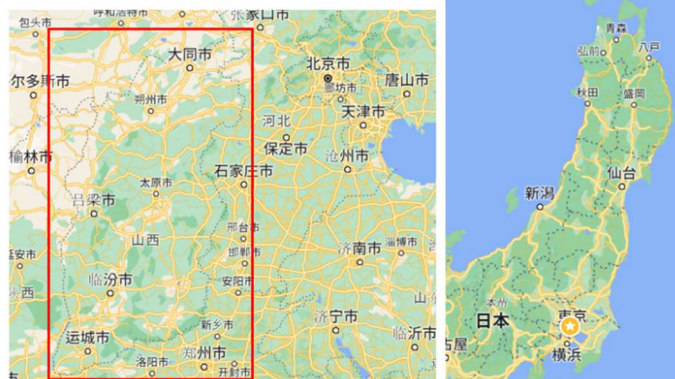
【国の大きさについて】

中国に留学に行くと友人に話したとき、北京?上海?と聞き、山西省の太原だというと、どこ?田舎の方に行くのと言ってきた。一般の日本人にとって大きな国中国というイメージはあったとしても北京、上海とか知っている都市以外は田舎らしい。そういう私も、埼玉県と山西省が友好県省と聞いて、その大きさを見誤っていた。山西省は、東北・関東・甲信越を足した面積よりも大きい。省都のここ太原はさいたま市の三倍。大きなショッピングモールはいくつもあります。中国は広い。これからの私の体験は中国の山西省太原という場所での経験でしかない。中国という大きな主語では語ってはいけないと感じます。

Google マップ利用

山西省 15万6700km²
(太原 657km²)

日本
東北地方 6万7千km²
関東地方 3万2千km²
甲信越 3万km²
(さいたま市 217.43 km²)



留学生生活については次のレポートで紹介いたします。全く不便なく、食事もおいしい、緑豊かで水も豊富できれい、空も青い。これについても、中国は水不足、大気汚染、コメはおいしくないなど、日本での勝手な思い込みから良い意味で裏切られました。

地元の銀行口座と携帯電話そしてケータイアプリがあれば、鉄道、バス、レンタサイクルで行きたいところにはどこでも行ける。お金の支払いでもたもたすることもない。30年前の旅行で訪れた混沌と不便な中国とはまるで違う、電子化社会がこんな便利な生活をもたらしている。

異文化適応過程の最初の段階はハネムーン期。まだハネムーン期が続きそうです。

太原郊外の「蒙山大仏」と学食の麺とご飯

